

## 論 文 内 容 要 旨

Do multiple personal roles promote working energetically in female nurses?

A cross-sectional study of relevant factors promoting work engagement in female nurses

(多重役割は女性看護師が生き生き働く強みになるか?女性看護師のワーク・エンゲイジメントの実態と関連要因に関する横断的研究)

Environmental Health and Preventive Medicine, 24 (56) ,2019, in press.

主指導教員：岡村 仁教授

(医系科学研究科 精神機能制御科学)

副指導教員：國生 拓子教授

(医系科学研究科 精神保健看護開発学)

副指導教員：森山 美知子教授

(医系科学研究科 成人看護開発学)

岡田 なぎさ

(医歯薬保健学研究科 保健学専攻)

近年、労働者のメンタルヘルスについてポジティブな側面からも検討されている。そのひとつに、Schaufeli らが提唱した、人間の持つ強みや仕事に対する積極的な認識であるワーク・エンゲイジメントがある。Job Demand-Resource Model (JD-R Model) では、仕事の要求度を規定要因としてストレス反応と健康問題の関連を説明する健康障害プロセスと、仕事の資源を規定要因としてワーク・エンゲイジメントとポジティブな行動を説明する動機づけプロセスについて示されている。また、NIOSH (The National Institute for Occupational Safety and Health) の職業性ストレスモデルによると、「仕事上のストレス要因」に家庭/家族からの要求等の「仕事外の要因」が加わると、心身の健康度が低下する。

看護師は、仕事上のストレッサーが多い職業の一つとして知られている。しかし、就労する女性看護師は結婚、出産、育児などのライフイベントを経験することで仕事役割以外に家庭役割を担い、多重役割を担うこととなり、「仕事外の要因」が増え、心身の健康度が低下することが予測される。先行研究でも結婚・出産・育児を経験し、妻または母親役割がある女性看護師の精神健康度は一般女性より低いことや、女性の中堅看護師はバーンアウトの「脱人格化」が男性よりも高く、その要因として年齢的に結婚、出産、育児などのライフイベントによる家庭環境の変化が関係している可能性が示されている。また、わが国では、常勤看護師の離職理由として結婚、出産、子育てなどが上位を占めていることや、潜在看護師の約 8 割が再就労を希望するにも関わらず、再就労しない理由に「子育て」や「仕事と家事の両立困難」が多く占めている現状は約 20 年間変わっていない。すなわち、わが国の就労する女性看護師にとって、結婚、出産、育児というライフイベントを経験して多重役割を担うことは、精神的健康を低下させる要因、離職の要因や再就労を妨げる要因となっており、心身ともに健康で生き活きと労働生活を営むことに抑止的に働く可能性があると考えられる。一方で、既婚の女性看護師はワーク・エンゲイジメントが未婚の者より高いことが先行研究で示され、就労する女性看護師は結婚、出産、育児というライフイベントを経験して多重役割を持ち、さまざまな要求が増える半面、労働生活を営む上での強みとなる可能性も推測される。しかし女性看護師を対象にポジティブなアウトカムであるワーク・エンゲイジメントについて多重役割に着目して検討した先行研究は少ない。

多重役割に関する変数として、仕事と家庭のスピルオーバーがある。スピルオーバーは、「仕事役割」と「家庭役割」のうち、一方の役割で生じた出来事や状況が他方の役割の状況に影響を及ぼすことを示し、仕事から家庭へのネガティブ・スピルオーバー (WFNS)、家庭から仕事へのネガティブ・スピルオーバー (FWNS)、仕事から家庭へのポジティブ・スピルオーバー (WFPS)、家庭から仕事へのポジティブ・スピルオーバー (FWPS) の 4 つがある。

そこで、本研究では、就労する女性看護師のワーク・エンゲイジメントの実態を明らかにするとともに、多重役割の有無を含むどのような要因がワーク・エンゲイジメントに関連しているのかを検討することを目的とした。

福岡県内にある 200 床以上の 3 か所の一般病院に勤務する女性看護師 1225 人を対象に、

無記名自記式質問紙横断調査を行った。回収人数は 650 人（回収率 53.1%）、有効回答人数は 612 人（有効回答率 50.0%）であった。有効回答者 612 人について、多重役割（妻または母親役割）の有無、スピルオーバー、コーピング特性、仕事の要求、仕事の資源とワーク・エンゲイジメントとの関連について重回帰分析を用いて評価した。その結果、就労する女性看護師のワーク・エンゲイジメントはわが国の女性労働者とほぼ同様に低い状態であったが、多重役割のある女性看護師のワーク・エンゲイジメントは多重役割がない女性看護師より高かった。また、重回帰分析の結果、就労する女性看護師のワーク・エンゲイジメントに関連する要因として、FWPS、仕事の資源、コーピング方略の「視点の転換」「積極的問題解決」「回避と抑制」、多重役割が抽出された。以上より、就労する女性看護師が仕事に対してポジティブで充実した心理状態を維持・向上するためには、多重役割を担うことが強みとなり得ることに加え、仕事上の支援や個人による効果的なコーピングだけでなく、家庭からのポジティブな影響を最大限に活かすための家族との関係を良好に保てるような支援が重要であることが示唆された。